再評価結果

担　当　課：有料道路課
担当課長名：上野　進一郎

事業名	東関東自動車道　水戸線（鉾田～茨城JCT）	事業区分	高速自動車国道	事業主体	東日本高速道路㈱
起終点	自：茨城県鹿島郡鉾田町大字飯名 至：茨城県東茨城郡茨城町大字小鶴			延長	18.2 km

事業概要　東関東自動車道水戸線は北関東自動車道、常磐自動車道と一体となって東関東地域と首都圏との結びつきをより一層強化し、東関東地域の発展に資する路線である。

Ｈ１１年度事業化	Ｈ８年度都市計画決定 （Ｈ　　年度変更）	Ｈ１４年度用地着手	Ｈ１７年度工事着手

全体事業費	約517億円	事業進捗率	22 %	供用済延長	― km
計画交通量	17,200～17,900台／日				

費用対効果分析結果	B／C	総費用　(残事業)/(事業全体)	総便益　(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 3.1 (残事業) 4.3	387 / 533億円 事　業　費：304 / 449億円 維持管理費： 83 / 83億円	1,652 / 1,652億円 走行時間短縮便益: 1,400 / 1,400億円 走行経費減少便益: 174 / 174億円 交通事故減少便益: 77 / 77億円	平成20年

感度分析の結果　残事業について感度分析を実施

交通量変動　：　B/C = 4.7（交通量　＋10%）　B/C = 3.8（交通量　－10%）
事業費変動　：　B/C = 4.0（事業費　＋10%）　B/C = 4.6（事業費　－10%）
事業期間変動　：　B/C = 4.4（事業期間－1年）　B/C = 4.1（事業期間＋1年）

事業の効果等

拠点都市間を連絡し相互の連携が強化される
高度医療施設までの搬送時間が短縮される
緊急輸送道路が通行止めになった場合の代替路線を形成する　　他１２項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

成田国際空港や首都圏の北の玄関口「茨城空港」のアクセス道路として機能するばかりでなく、鹿島港・茨城港を高速道路で結ぶ物流の基盤強化に欠かせない重要な路線である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

隣接する潮来～鉾田間が都市計画決定。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在工事中。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

今後も引き続き工事の推進を図る予定。

施設の構造や工法の変更等

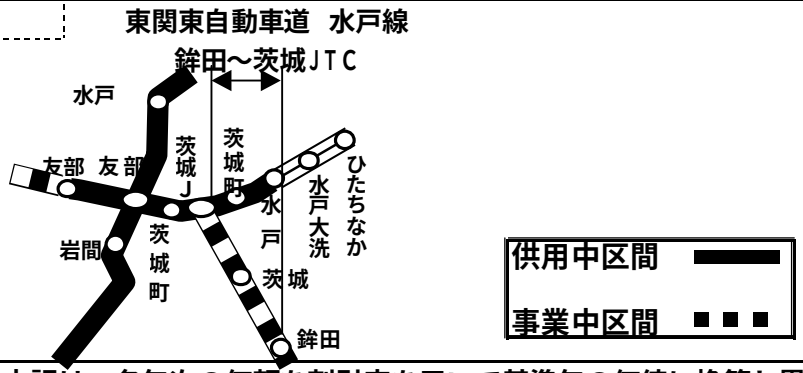
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。

対応方針　継続事業

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変らないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。